

パパ・ママ子育て知恵袋

第24回は「漢字は前倒しで教える」

1年生も少しずつ漢字を勉強して、読める漢字、書ける漢字が増えてきています。小学校で習う漢字は、およそ1,000文字あります。これを6年間で身に付けていくので、1年生ではこの漢字、2年生ではこの漢字と、「学年別漢字配当表」というものがあり、計画的に勉強していきます。

私が尊敬する国語の師匠は、「**学年別漢字配当表にない漢字でも、前倒しでどんどん教えればいい**」とおっしゃいます。

この方は、1年生国語で習う「おおきな かぶ」という物語のタイトルを板書するとき「大きな蕪」と大きく漢字で書かれます。

教科書はひらがなで書いてありますが、師匠は漢字で書きます。

書きながら「おおきな かぶ！」と読み上げます。

ですから、この方の授業を受けた児童は「大」という漢字と「蕪」という漢字は書けなくとも、読むことができるようになります。

まれに、「上の学年で習う漢字は使わせない」という教師がいます。何をかいわんや。

私の母は、私が小学校に入学すると、すぐに「あなたの名前は漢字では、こう書きます」と教えてくれました。「自分の名前くらい漢字で書ける子になりなさい」という教えは、今でも忘れられません。

私の苗字は「熊谷」ですが、「熊」が画数が多くて、なかなか覚えられませんでした。母は「熊」という漢字をバラバラにして（「ム」＋「月」＋「ヒ」＋「ヒ」＋「, , , ,」）、「ムこうの山に月が出て、ヒ（日）が出て、日が出て、4つ出た」と歌って覚えるよう教えてくれました。

お勉強は「**ちょっと背伸び**」をすることです。

技術者であった父は、小学校1年生の私にハンダゴテの使い方を教えてくれました。なんとなく誇らしい気持ちになったものです。

校長室に来た子供に「あなたの名前は漢字でこう書きます。それでこの漢字には、これこれこういう意味があります。あなたの名前は記号ではありません。意味があります。とてもよいお名前です」と教えると、目をキラキラ輝かせます。

子供のノートに漢字が増えたら。大いに感心してあげてください。